

2020年7月21日

学校法人東京女子医科大学理事長  
岩本 絹子 殿

東京都庁職員組合病院支部  
支部長 千葉 かやと



**貴理事会の一時金ゼロ回答に抗議し労働組合の要求に誠実に回答することを求めます**

去る6月11日に貴理事会が提示した「夏期一時金ゼロ」の回答は、コロナ感染が拡大する中で自らの危険も顧みず懸命に働いている教職員の努力を踏みにじると同時に、生活を根底から脅かす暴挙と言わざるを得ません。このことは、全国の医療従事者にも大きな衝撃を与えています。さらに今期の昇給も停止しており、こうした貴理事会の対応は、教育・研究・診療という重要な社会的役割を担う大学病院の中ではどこにも見当たらず、到底認められるものではありません。

今回の新型コロナウイルス感染拡大で大学病院ばかりでなくすべての病院・医療機関が経済的影響を受けました。しかしその影響を一方的に労働者に押し付けて解決しようとするのはあまりにも理不尽です。

また貴理事会が労働組合との交渉の中で、看護師400人を超える退職希望に対して、補充すればよいと回答されたことが報じられています。このような貴重な医療人材を使いつぶして恥じることのない態度に怒りを禁じえません。

こうした貴理事会の大幅な人件費削減は、教職員の生活を脅かし、働く意欲をも低下させると同時に、大学病院の重要な課題である看護師を始めとする教職員の人員確保や定着化に大きな影響を及ぼし、今後の女子医大の発展に悪影響を与えると考えます。

ついでには、今回の貴理事会の夏期一時金回答に抗議するとともに、当該の労働組合の再検討要求に対して真摯に応じていただくよう強く要請するものです。